

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3474800376
法人名	社会福祉法人 総領福祉会
事業所名	グループホーム みら屋
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789-2 (電話)0824-44-3008
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号
訪問調査日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(20年9月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤4人常勤兼務2人非常勤兼務8人常勤換算8.5人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	地上 2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費分	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	又は1日	1,000 円		

(4)利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	2 名	要介護4	4 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.7 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	高場クリニック・市立三次中央病院・備北ななつか病院・市立湯が丘病院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみら屋は、運営主体が社会福祉法人総領福祉会であり、当ホームは三次市三良坂町で町中から少しはずれた緑に囲まれた小高い丘陵地に位置し、建物は民家を改築したもので「木」を主とした落ち着いた雰囲気の家屋である。入居者は介護を受ける人ではなく、地域の一員として過去の経験を活かした自立的行為が呼び覚まされるような環境を使った介護の下で、一人ひとりの尊厳が守られ「その人らしい」暮らしができるように、常日頃からケアの意見の統一と心配りがされた明るいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はないが、さらなるケアサービスの質向上に向けて、各種研修の強化に努め、利用者の自立支援に向けて協力し取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 当ホームは評価の重要性を認識し、今後もグループホームの役割やホームの理念に基づき良質な介護サービスを提供され、入居者が幸せに過ごしてもらえるよう改善に向け努力されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に行われ、地域、家族代表の方々との意見交換がされサービス改善に意欲的に取り組まれているが、参加者への呼びかけを、例えば近隣の商店との交流の強化なども検討され今以上の良い運営推進会議となることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 常日頃からきめ細かく家族とは定期的に連絡を取り合いながら、また、来所時の声かけを励行し、その他には運営推進会議の場で意見、要望など可能な限りいただきながら、それらを基に改善に向けて全職員が話し合っておりより良いホームづくりに努めるとされていた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域的に農作業をされている方々との出会いが多くあり、声掛けや挨拶により地域との関係を一層深めるように努められている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の思いを出来るだけ多く取り入れた経営理念の基で、当事業所のみならず地域全体のサービス向上に向け努力されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングの際には必ず理念触れながら、明るく温かいホームを目指して取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には殆ど参加して関わりの構築や、また中学生の職場体験学習の受け入や入居者と職員が共に外出した際には、地域の方々と明るく元気よく挨拶を交わしながら、顔見知りの関係作りに努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を管理者と職員全員がよく理解して取り組んでおり、また、外部評価に対しては運営推進会議で報告し、改善に取り組まれていた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は概ね定期的に開催されているが、今後は家族代表者などを持ち巡りとし、これらによって意見の多様化を図るようにする手法にも努めサービスの向上に活かされることを望みます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報紙が出来た時や必要に応じ市役所(支所)に出向き担当者と直接に面接し、情報交換を行うなどしながら地域との連携に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の現状把握に常に努め、定期的には家族と連絡を合っており、また来所時にはアルバムなどを見せたり、そして居室はいつでも見せられるようにしている。今後は「ホームだより」的なものを発行し、家族と情報の共有化を今以上に図りたいとされていた。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表を交えて、多くの意見、要望等をいただきながらサービス向上に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限度にとどめ、法人全体で働きやすい職場環境づくりに努め、利用者の混乱をまねかないように配慮されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修に参加し、また法人全体での研修体系の下で現任研修、新人研修の機会は確保されていた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践研修の実習の受け入れを積極的に行い、スタッフが同業者との交流する機会がつけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に施設の見学、面接を行い本人の状況を把握し、利用者、家族の納得の上で入居、また入居前に愛用されていた物の持ち込みをしてもらうなど環境づくりに配慮されていた。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「いっしょに大笑い・楽しい一日をありがとう」をモットーに家事、趣味に応じ利用者との行動を共にし、本人から学ぶことに努められていた。訪問当日は「つるし柿」(干し柿)に挑戦されており上手に皮をむがれていた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から家族の意見、苦情などは、事業所独自のアンケートや家族との意見交換の機会収集している。アンケートの意見に入居者の散歩について記されていたが、適切に対応されていた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>常日頃から、入居者一人ひとりの意向の確認や、家族のほか必要な関係者とよく相談し、また職員全員による意見交換、アイデアなどを介護計画に反映させるよう取り組まれていた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りやミーティングなどで利用者、家族の要望を取り入れると共に状態が変化した場合は、随時見直しをするようにされていた。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要の都度法人内や他の施設サービスも紹介すると共に、利用しながら機能訓練や余暇活動などにより、柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関である近隣かかりつけ医が、週1回主治医として往診があり、また本人や家族の希望により他の医療機関の診断を受けるよう支援が行なわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向や要望に沿って医師、看護師と相談し、事業所で出来る最大のケアについてミーティングの中で話し合い、情報の共有など努力されていた。また、重要事項説明書に事業所の対応方針が明記され、マニュアルも作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の心を傷つけないよう言葉遣いや態度に気を配り、またケースファイル等記録類は職員以外の人の目に触れないように施錠ができる収納庫で管理されていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、利用者の生活リズムに合わせると共に、日々利用者の体調や気分への配慮も欠かせないよう努力されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物などや旬の食材を取り入れたメニュー作りや、調理、配膳、片付けや食事を職員と一緒にしながら必要な方には支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向に沿った入浴としているが、体調、気分不良などで入浴を拒否される場合は、臨機応変に清拭するよう支援されていた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居した祭の挨拶をしてもらったり、家事や畑の手伝いなどや縁側の日だまりでの自由にのんびりと楽しく過ごしてもらえるよう心配りがされていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には季節を感じてもらう散歩、買い物に出かけるなどの支援がされていた。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は居室や玄関に鍵をかけることの弊害を認識し、常日頃から鍵を掛けないケアに努めている。玄関の戸は開けると音がするように工夫され、職員の目配り・心配りがされていた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っているが更なる安全確保を目指して十分でない項目の強化に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好、食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの状態に応じた調理方法で提供されている。水分補給も適切に摂取された記録がなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築したもので懐かしい雰囲気があり、落ち着いたやすらぎのある空間作りに取り組まれている。また、縁側の日当たりもよく、別棟には茶室あり憩いの場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた家具やテレビ、調度品など持ち込まれおり、事業所も自分らしく過ごしてもらえるような居室づくりのお手伝いに努められていた。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームみら屋

評価年月日 2008年 9月 15日

記入年月日 2008年 9月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 末重 幸子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の住民の思いを含めた開設当初からの理念を、毎年事業計画やパンフレットにも掲載し、少しでも実現できるように取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常の場面、申し送り、ミーティング等を通じて話をしながら取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	取り組んではいるが、あまり積極的ではない。		地域に積極的に出て、説明会や認知症に関する勉強会などを開催していく。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎日のように日課としている散歩や買い物に出かけたとき、声をかけたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事（お祭りやとんど、運動会など）に参加したり、中学生の職場体験学習を受け入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ミーティングなどで話し合いは行っているが、取り組みはまだできていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果を職員にはミーティング等で報告、運営推進会議でも報告し改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者からの意見や思いも、会議の中で述べていただき、サービス向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	広報紙ができた時など、市役所(支所)にもついでいき、担当課や担当者と話をするところがある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶようになっているが、まだまだ不十分である。		研修会に参加したり、ミーティング等でも話し合いを持つようにし、理解を深めていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修や外部の研修等で学ぶようになっているが、まだまだ不十分である。		研修会に参加したり、ミーティング・日々の申し送りでも話し合うなどして、虐待の防止の徹底に努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書に明記し、入居時に説明し同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	運営推進会議に利用者の代表として出席して意見を述べてもらったり、日常の場面でも耳を傾けるよう努力している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的に連絡したり、来所時の声かけや個別にアルバムをつくり、居室に置いていつでも見ていただけるようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会に家族の代表として出席していただき、意見を述べてもらったり、来所時には声かけをするよう取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回人事考課を実施し、その際個人面談も行いスタッフの思いや意見を聞けるようにしている。また、日々の申し送りやミーティング等でも意見交換している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務表を作成し、場合によっては時間を変更する等、調整している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人全体で人事考課を行うなど、働きやすい環境づくりに取り組み、異動後もグループホームの運営に関わってもらうなど、工夫している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修・リレー研修など研修の機会を確保している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>認知症実践研修の実習の受け入れを積極的に行い、スタッフが同業者と交流する機会をもっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>懇親会等を開催したり、管理者が職員の個人面接を行い、意見を聞けるよう取り組んでいる。また、法人全体で人事考課制度を導入し年2回行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>法人全体で人事考課制度を導入し年2回行っており、個々の努力や実績が反映されるように努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居前から本人と事前面接を行ったり、入居後も新しい環境に慣れていただけるように、声かけをしたり傾聴に取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から事前面談を行ったり、電話で状況を確認したり、入居後も新しい環境に慣れていただけよう、声かけや状況報告をしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人や家族の思いを聴き、状況に応じて他のサービス利用についても情報提供し、他のサービス機関と連携をとっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居に際しては事前面談を行い本人の状況をよく把握し、初期の段階では特に気をつけて声かけし、職員が間に入って他の利用者とのコミュニケーションを取れるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「いっしょに大笑い、楽しい一日ありがとう」をモットーに、昔ながらの調理法を教えていただいたり、昔話を聞いたり、歌を習ったり、いっしょに過ごす時間を大切にしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居中のご本人の様子をお話したり、あるいは入居前の様子を伺ったりしながら、ご本人が安心して生活していただけるように協力し合っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人や家族の思いを大切に、外出・外泊等の支援を行ったり、普段の様子を細かに伝えたりするように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊の支援をしたり、入居前から続けられている文化活動への参加を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の中に職員が入ってコミュニケーションをとりやすくしたり、朝の起床の声かけや入浴の声かけを世話役の入居者にしてもらったりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他機関との連携をはかるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、ご本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後にも今までの生活歴を尋ねたりしながら、ご本人の今までの暮らし方が継続できるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を把握し、安心して過ごしていただけるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一人一人の入居者に担当の職員をつけ、その職員が中心となってアセスメントも行い、具体的な計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の申し送りやミーティング等で、必要に応じて意見交換し、家族に相談しながら計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「暮らしのアセスメントシート」を作成し、日々の状態が具体的にわかりやすく記入できるように工夫している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人内の他のサービスも紹介したり、利用したりしながら、本人らしい生活ができるように努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて協力しながら支援を行っているが、まだまだ不十分である。		地域との協力関係が深まるように、運営推進会議等で協議しながら取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて連絡したり相談することはあるが、十分に支援できていない。		グループホームに入居していても、必要に応じて地域の他のサービスが利用できるよう支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて連絡することはあるが、十分に協働できているとは言えない。		定期的に連絡や情報交換をするなど取り組んでいく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	近隣にかかりつけ医（週1回往診あり）があり、また希望に応じて他の医療機関でも診察を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者の状況によってはこちらから受診し、専門医から助言をもらっている。日常的にはかかりつけ医に相談している。		日常的に相談できる専門医の確保に努める。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員の中に看護師を配置し、日常の健康管理が行えるようにしており、近隣の看護師のOBにも協力を依頼している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	状態に応じて家族・医療機関と相談を行いながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時にご本人や家族の意向を確認し、状況に応じて話し合いや相談を繰り返しているが十分ではない。</p>		<p>重要事項説明書に明記したり、マニュアルを作成する。またミーティングで情報共有できるよう取り組んでいく。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>状況に応じてかかりつけ医等と相談しながら支援しているが、十分ではない。</p>		<p>重要事項説明書に明記したり、マニュアルを作成する。またミーティングで情報共有できるよう取り組んでいく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>事前に関係者間で話し合いや情報交換を行い安心して新しい環境に慣れていただけるよう努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>できる限り利用者の方の目線に立って言葉かけや対応をするようにしている。記録等も、利用者の目の届かない所へ保管している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が選択するのではなく入居者に選択していただく場面を作ったり、「して下さいますか？」と依頼する、言葉かけする等、自分で決めて暮せるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりのペースで生活できるように、外出や散歩も希望を聞きながら支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望を聞きながら、なじみの理美容院へ出かけられたり、職員が対応したり家族が行ったりしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の段階から利用者の希望を尋ね、食事の準備、後片付けも一緒に行う。職員も一緒に同じテーブルにつき食事を楽しんでいる		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の希望を聞きながら、好みのものを楽しめるよう声かけをしている。また10時・3時にはいくつかのメニューの中から飲み物を選んでいただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の声かけや介助、失禁等の対応では本人が不安を感じないように、また他の入居者に配慮しながら行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を聞きながら、昼間・夜間の対応ができるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの居室でゆっくり休んでいただいたり、縁側や和室・共用のフロア(食堂)にもソファをおき、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居前に老人会の会長などの役職をされていた入居者の方に、代表としてあいさつをしてもらったり、その他家事や畑を手伝ってもらっている。季節感のあるお手伝い(干し柿作りや栗の皮むきなど)も楽しんでもらっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所持していただいており、外出時などお金が使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できるだけ毎日散歩や買い物に出かけるように、支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	要望があれば随時対応し、その季節ごとにお花見やドライブ・美術館めぐりなどを計画し、外出の機会を増やすよう心がけている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいという希望があればかけてもらい、また手紙を書くことを勧めて書いてもらっている。はがき・便箋・封筒など準備している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	個々の居室でゆっくり過ごしてもらっている。必ずお茶等を持っていき声かけをするようにしている。宿泊も自由にできるよう寝具等も準備している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の業務分担の中で、身体拘束係をつくり研修会に参加したりミーティングで話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		さらに理解が深まるように、定期的に勉強会等行っていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝夕の施錠時間を決め、日中はできるだけ開放している。玄関の戸に開けたら音がするようにしたり、職員が目配り心配りをするよう心がけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	食堂のイスやソファで記録をとったり、定期的に訪室しながら見守りができるよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要に応じて保管場所をかえたり、その物品に代わるものを準備したりして工夫している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人全体でもマニュアルを作成し取り組んでいる。またヒヤリハットレポートを使用し事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	法人全体でマニュアルを作成し、研修会等でも勉強しているがまだまだ不十分である。		すべての職員が定期的に訓練できるよう、年間計画の中で取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成したり、年2回避難訓練を行っているが十分ではない。		地域の人々からも協力が得られるような働きかけを行っていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	個々の状況や変化に応じて、状況を家族に報告し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックをし、職員が出勤したときには必ず一人一人に声をかけてあいさつし、体調の変化や表情の変化などに注意している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の服薬に関して、用法・用量・目的・副作用が分る表を作成し周知を図り、確実に服用できるよう支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	できるだけ薬に頼らないようにセンナ茶を服用してもらったり、おやつにヨーグルト・牛乳・果物・寒天を使用するなど工夫し、水分摂取にも気を配っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯みがきの声かけ、介助を行っている。定期的に義歯をポリドント洗浄したり、必要に応じて歯科受診もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事はホームで手作りしており，一人一人の状態に応じた調理方法で提供している。水分も3度の食事以外にも摂取していただけるよう声かけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	法人全体でマニュアルを作成し予防に取り組んでいる。 手洗い・うがいも励行し予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	独自の衛生マニュアルを作成し，調理器具等の消毒を行い定期的に冷蔵庫・食品庫の整理をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関廻りの建物が民家を移築した物になっており，鉢植えを並べたり，木の温もりのある表札をかけたりにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物になっており，懐かしい雰囲気がある。のれんをかけたりに，空間作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチ、いすなどを共用空間や廊下に置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご家族に働きかけ、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただきその人らしい部屋作りに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	時間を決めて1日3回は換気し、食堂には温度計を設置して温度調整や空調に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各要所へ手すりを設置し、玄関にはイスを置いて靴を安全にはいたりできるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	手作りの日替わりカレンダーを食堂へ貼ったり、居室の入り口にはそれぞれの花を飾ったり、トイレには大きく赤字で「便所」と表示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームのすぐ前には畑もあり、畑作り等も楽しめる。洗濯物も入居者の方と一緒に干せるようにホーム内にも物干し場を設置している。		